

## 令和 3 (2021) 年度事業計画

### I 事業方針

本協会 (JMCA) は、わが国における登山界、スポーツクライミング界及び山岳スポーツ界の統轄に関する事業を行い、これを代表する団体として安全を第一に山の環境と文化に配慮した登山、スポーツクライミング及び山岳スポーツの普及振興を図ることを活動の原点としている。

令和 2 (2020) 年度は、年度当初から未曾有の COVID-19 の感染拡大に見舞われ、東京 2020 オリンピックの延期を筆頭に諸事業の延期・中止が相次ぎ、何もやれない、何もできないことが創立 60 周年の記念となる、余りにも悲しい 1 年であった。

令和 3 (2021) 年度もコロナ禍の影響により、日本のみならず世界の経済状況が著しく悪化し、財政的に厳しい協会運営を強いられることが予想される。こうした現況を鑑み、本協会では、日本の登山及びスポーツクライミングのより一層の改革・発展を期し、「JMCA 中期経営計画 2021-2025」(以下、「中期計画」という。)を策定した。

この中期計画で掲げる VISION (理念)・MISSION (使命)・VALUES (価値) に基づき、加盟団体及び登山・スポーツクライミング関係者とともに、新時代に向けて「より高き頂」へと更に大きく成長発展する登山・スポーツクライミング界を築いていき、登山とスポーツクライミングの力で社会を元気にする社会貢献(人づくり・地域づくり・国づくり)を目指す。(中期計画書は、別紙参照)

令和 3 年 (2021) 度は、延期となった東京 2020 オリンピックの年である。東京 2020 オリンピックでは、コロナ禍に負けることなく JMCA が一丸となって全員団結でメダル獲得を目指す。

東京オリンピックのレガシーとしては、パリ 2024 オリンピックへの目標とマイルストーンを設定し、ユース世代の発掘・育成・強化を図るとともに、選手の心身の健康をサポートする。

ジャパンカップ等の運営ノウハウを向上させて、各競技大会の価値拡大を図る。また、ジャパントア、クライミング体験会等を全国的に展開してスポーツクライミング愛好者の底辺拡大を目指す。

選手強化とともに指導者、審判員、ルートセッター、競技スタッフ等の養成と資質の向上を図り、国内の競技大会を発展させていく。

一方、登山に関しては、山岳遭難事故を減らす事故防止対策が喫緊の課題である。リーダー不在の遭難事故が絶えない。まず、身近なリーダーを育成するために、「夏山リーダー制度」を積極的に全国展開し、より多くの夏山リーダー養成に努める。

また、一昨年から呼びかけている“ストップ・ザ 1000!!”の減遭難キャンペーンは、音声入りアニメ動画を用いて全国に展開し、減遭難運動を広く登山者に呼びかける筈であったが、コロナ禍で思うような拡散ができなかった。令和 3 年度は、with コロナを見極め

ながら推進したい。

遭難事故を起こさない自立した登山者の育成とともに衰退傾向にあるアルパインクライミングの振興を図り、海外登山の奨励やウインタークライマーズミート等を支援する。

「美しい山、日本の未来へ」の山岳自然保護や登山文化の継承は、子供たちを山に親しみさせ、登山の楽しみ、喜びを伝えなくては、適わない。委託事業の「少年少女登山教室」を加盟団体と共に更に発展させるべく、事業の取り組みを検討する。

山岳スキーやアイスクライミング等の山岳スポーツの競技力向上及び普及・振興については、国際的にはともかく、国内においては、規模的にも、社会環境的にも競技としてはまだ発展途上にある。IF(国際連盟)と連携を図りながら出来る限りの支援を行う。

本協会の「スポーツ団体ガバナンスコード」の適合性審査は、令和4年だが、自己説明及び公表は毎年対応を求められる。加盟団体も一般スポーツ団体ガバナンスコードに則った運営が求められており、一昨年度から始めている加盟団体の法人化支援と合わせて、より一層のサポートをしながら、加盟団体の組織・財政の強化を図りたい。

また、選手のみならず、役職員、指導者、審判員、ルートセッター等の倫理研修を継続的に行い、関係者が一丸となってガバナンスの強化に努める。

JMSCA とはどのような団体か各ステークホルダーをはじめ広く国民に向けて「JMSCA の価値観」を積極的にアピールし、情報発信する必要がある。広報委員会を拡充させ、HP の改善、英文 HP の開設などを図り、インバウンド対応を整備する。また、SNS 等を利用してタイムリーな情報発信を行っていく。

## II 組織運営及び財政の確立について

本協会が実施する各事業の推進にあたっては、本協会内に設置した各専門委員会を中心に企画・立案し、必要に応じてワーキンググループ等の設置や調査を実施し、課題解決に向けた具体的な目標の設定や実施方法等について検討を行う。

また、事業評価システムを着実に実施し、体系的な PDCA サイクルを定着させ、そのスキームを本協会内や加盟団体等に浸透・定着するよう努める。

さらには、加盟団体をはじめとした関係団体・機関等の協力を得るとともに、日本スポーツ協会 (JSPO)、日本オリンピック委員会 (JOC)、日本ワールドゲームズ協会 (JWG) 等のスポーツ関係団体や東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と必要に応じて連携・協力を図り、活動内容の広報を積極的に展開するため、報道機関とも連携を図る。

登山においては、国土交通省、環境省、文部科学省、スポーツ庁、国立登山研修所、国内山岳三団体 (JWAF, JAC, JMGA)、全国山の日協議会等の関係省庁・機関・団体と連携を図り、安全登山と山岳自然保護の啓発に努める。

また、国際的には国際山岳連盟 (UIAA)、国際スポーツクライミング連盟 (IFSC)、国際山岳スキー連盟 (ISMF)、アジア山岳連盟 (UAAA)、アジア大陸協議会 (ACC) 等の IF, AF と緊密な連携を図り、国際人養成と並行して、引き続き役員を送り込むべくロビー活動を積極的に展開する。

これらの事業実施にあたっては、スポーツ庁、JOC, JSPO, 日本スポーツ振興センター (JSC)、上月財団等の関係省・機関・団体をはじめ民間の協賛各社等に対し、本

協会が実施するスポーツ推進事業の重要性について、より理解を得るための働きかけを積極的に行い、活動資金の援助を強く要請する。

一方、免税募金については、関係各方面の理解と協力を得て、寄付金の募金活動を行い、本協会が実施する各種活動を推進していくための財政確立に努める。

財源の確保については、クライミングイベントの価値拡大を図り、スポンサー収入、サプライヤー提携、チケット収入、物販収入等の事業収益で増収を図る。

また、山岳共済会への加入促進を積極的に図り、業務委託費の確保に努める。また、賛助会員（団体・個人）、「CLUB-ITADAKI」会員の加入促進や選手登録、各種資格認定等を積極的に進めて増収を図る。

なお、本協会の組織運営に際しては、関係者が一丸となって、コンプライアンスの徹底及び組織のガバナンス強化に努める。

### Ⅲ. 事業内容

#### 1. 安全登山普及事業

網掛けは JSC 補助事業。

##### (1) 青少年育成事業(普及委員会)

###### ア) 高体連登山専門部関連

①第 64 回全国高等学校登山大会の開催 令和 3 (2021) 年度福井大会

8 月 20 日(金)開会式、勝山市体育館ジオアリーナ 8 月 20 日(金)～22 日(日) 登山行動

8 月 23 日(月)閉会式、山城は三頭山、取立山

②第 11 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催

12 月 25 日(土)～26 日(日) 埼玉県加須市市民体育館

###### イ) ジュニア登山教室

①「少年少女登山教室」の開催(委託実施)

「未実施の岳連(協会)への積極的な取り組みをお願いしたい。」

②「登山普及情報交換会」開催

2022 年 2 月 12 日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター

##### (2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

###### ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

###### イ) 登山に関する情報・資料の収集

###### ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・2021 年度実施各競技大会入賞者(1 位～3 位)表彰

・第 59 回全日本登山大会功労者特別表彰(10 回以上の参加者)及び開催地関係者への感謝状(団体)贈呈

・2021 年度永年参与感謝状贈呈

・特別功労者表彰

・第 11 回日本山岳グランプリの公募と顕彰

・2021 年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦

朝日スポーツ賞、日本スポーツ賞、毎日スポーツ人賞、ビッグスポーツ賞、ミズノスポーツメントール賞、日本スポーツグランプリ等

・2021 年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦

・2021 年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦

・2023 年度叙勲及び褒章候補者の推薦

###### エ) 2021 年度海外登山隊奨励金の公募と選考(国際事業の項)

###### オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援

###### カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

### (3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際の各委員会)

#### 普及委員会

ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)の実施

① 東部地区(三重県) 10月29日(土)～31日(日)

宿泊 未定

② 西部地区(佐賀県) 11月20日(土)～22日(月)

宿泊 未定

イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催)

① 高等学校等登山指導者夏山講習会

7月9日(金)～11日(日) 国立登山研修所及び室堂周辺

② 上級登山リスクマネジメント指導者研修会

2021年9月予定 近畿地区予定

③ 安全登山サテライトセミナー

オンライン 宮城の前に開催予定

宮城会場: 5月下旬～6月下旬(100人規模の施設を想定)

東京会場: 12月18日(土)～19日(日)(100人規模)

国立オリンピック記念青少年総合センター

④ 登山リーダー夏山研修会 8月18日(水)～23日(月) 国立登山研修所及び  
剣岳周辺

⑤ 積雪期登山基礎講習会

2022年2月11日(金)～13日(日)、国立登山研修所及び周辺山城

⑥ 登山リーダー冬山研修会

2022年3月13日(日)～18日(金) 国立登山研修所及び大日岳周辺

ウ) 第59回全日本登山大会の開催

2021年9月25日(土)～27日(月)の3日間、新潟県、苗場山・平標山等

#### 遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

① 西部地区(富山県・国立登山研修所) 9月10日(金)～12日(日)

② 東部地区(群馬県・土合山の家) 1月28日(金)～30日(日)

イ) 研修及び研究会

① 遭対常任委員研修会 8月21日(土)～22日(日)、12月18日(土)～19日(日)

② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6月26日(土)～27日(日)

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」の啓発活動

・アニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ!」の拡散

エ) 令和3年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他) 7月16日(金)文

科省講堂

- オ) 山岳保険加入者の事故調査 (報告書作成/H P 掲載)
- カ) 遭難事故の調査研究
  - ・ 遭難事故に関する調査研究 (委託事業)
  - ・ 遭難事故の科学的分析
- キ) 遭難事故科学的研究・他支援
  - ・ IMSAR 研究助成支援 (継続)
- ク) 遭対委員会 年間オンライン等
- ケ) 「国内旅行傷害保険包括契約」実施

国際・アルパインクライミング委員会

- ア) 国際・アルパインクライミング委員全体会議兼第 59 回海外登山技術研究会  
場所日程未定
- イ) 海外登山懇談会  
11 月 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ウ) 共催事業  
ウィンター・クライマーズ・ミーティング (国内) の共催  
2022 年 2 月

**(4) 登山指導者育成事業(指導委員会)**

- ア) 指導員研修会
  - ① 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・コーチ 2 養成講習会)  
5 月 8 日 (土) ~ 9 日 (日) 富士山 (中止)
  - ② 全国指導委員長会議  
6 月 5 日 (土) ~ 6 日 (日) オンラインにて
  - ③ 登攀技術研修会 (A 級主任検定員・コーチ 2 養成講習会)  
11 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日) (一社) 埼玉県山岳・SC 協会
  - ④ 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・コーチ 2 養成講習会)  
2022 年 2 月 5 日 (土) ~ 6 日 (日) 鳥取・大山
  - ⑥ 公認スポーツ指導員コーチ 1, 2、主任検定員の養成
  - ⑦ 夏山リーダー講師養成 年 3 回程度
  - ⑧ 上級夏山リーダー講師養成 年 1 回程度
- イ) 主任検定員養成講習会
  - ・ 山岳主任検定員養成講習会 未定
- ウ) 夏山リーダーUIAA 視察 9 月、11 月の 2 回
- エ) 委員会等
  - ① 指導常任委員会 年間オンライン会議
  - ② 夏山リーダー分科会 年間オンライン会議
- オ) 国立登山研修所事業への協力

## 2. スポーツクライミング事業

### (1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

- ①スポーツクライミング・第7回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会  
4月24日(土)～25日(日) 鳥取県倉吉体育文化会館
- ②スポーツクライミング・第4回コンバインドジャパンカップ  
6月5日(土)～6日(日) 岩手県盛岡市 岩手運動公園スポーツクライミング  
競技場
- ③スポーツクライミング第9回リードユース日本選手権  
5月29日(土)～30日(日) 富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター
- ④ユースCDチャレンジカップ(仮称)  
2021年9月18日(土)～20日(日) 茨城県鉾田市
- ⑤第11回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会(「青少年育成事業」の項参照)
- ⑥スポーツクライミング第35回リードジャパンカップ  
2022年2月11日(祝金)～13日(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館
- ⑦ スポーツクライミング・第17回ボルダリングジャパンカップ  
2022年3月12日(土)～13日(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋  
内球技場
- ⑧スポーツクライミング・第4回スピードジャパンカップ  
2022年3月19日(土)～20日(日) 昭島市・モリパークアウトドアビレッジ

### (2) 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)

五輪競技種目化に沿った国体スポーツクライミング競技の検討

ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

- ① 第76回三重国体第1回基準会議、三重県菰野町 日程調整中
- ② 組み合わせ抽選会 場所、JSOSビル 日程調整中
- ③ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ④ 10月1日(金)～3日(日) 第76回三重国体スポーツクライミング競技、三重県菰野町
- ⑤ 第76回三重国体以降の開催県への指導

### (3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

- ①代表（S. A. B）選手の選考
- ウ) 代表選手の派遣
  - ①IFSC クライミング WC  
4月～11月 世界各地
  - ②第32回夏季オリンピック大会  
8月3日(火)～6日(金) 東京・青海アーバンスポーツパーク
  - ③IFSC 世界選手権  
9月15日(火)～9月21日(月) ロシア・モスクワ
  - ④IFSC 世界ユース選手権  
8月23日(月)～31日(火) ロシア
  - ⑤IFSC アジア選手権重慶大会  
日程未定
  - ⑥ IFSC アジアユース選手権  
場所、日程未定
  - ⑦ アジアンビーチゲームズ 中国 三亜市  
2021年4月2日(金)～4月5日(火)
- エ) 代表選手強化合宿（海外・国内）
- オ) ユース選手・指導者講習会の開催
- カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への  
スポーツ障害予防啓発(医科学支援)
- キ) 複合種目(リード、ボルダリング)及びスピード種目への取り組み
- ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み
- ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

**(4) 審判・ルートセッター事業(技術委員会)**

- 各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力 ルートセッター派遣、  
ブロック別研修会講師派遣
- ア) 審判・セッター会議の開催（2月）
  - イ) 全国ルートセッター研修会 年2回
    - ・第1回：日程未定
    - ・第2回：日程未定(高校選抜の後)
  - ウ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会 年数回

**(5) SC コーチ養成講習会(SC 指導委員会)**

- 日程等については登山部のコーチ養成と歩調を合わせる。
- ① SC コーチ 1,2 養成習会 年2回
  - ② SC コーチ 3 養成会(補講) 関東地区 年1回



③ SC主任検定員養成講習会 12月4日(土)

④ SCコーチ更新研修会 年2回

⑤ SCコーチ養成用教材作成

**(6) スポーツクライミング医・科学事業**(SC医科学委員会)

ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動

イ) 代表選手メディカルチェック事業

ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業

① 登録選手向け医科学講習会(選手スタッフ合同ミーティング)2回

② クライミング医科学講習会

エ) 調査、研究事業

① 障害実態調査

② 学会活動(日本臨床スポーツ医学会ほか)

オ) JSP0公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援(受講希望者の推薦及び代表者協議会への出席)

**(7) ドーピング防止事業**(アンチドーピング委員会)

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

① ドーピング検査実施(JADAに委託)

② ドーピング防止講習会開催

③ TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援

④ ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

**(8) 倫理研修会事業**(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

AD・倫理研修会の開催(随時)

**(9) ユニバーシアード関連**(全日本大学スポーツクライミング協会)

JOC主催委員会等出席

**(10) 国際連盟役員獲得支援事業**

スポーツ庁の委託を受けて実施する。

**3. 登山関連競技会運営事業**

(1) 山岳スキー、スカイ／トレラン普及・振興

① 第14回日本山岳スキー競技選手権大会(山岳スキー委員会)

2022年イラン開催アジア選手権代表選考会

4月3日(土)～4日(日) 小谷村梅池高原スキー場

② ISMF(国際山岳スキー連盟)アジア選手権派遣支援

③ (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、

(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

#### 4. 登山研究調査事業

##### (1) 国際交流事業(国際・アルパインクライミング委員会)

###### ア) 国際交流

①訪日する外国登山代表团との交流

###### イ) 派遣他

① BMC International Climbers Meet への派遣 (夏)

英国 ノース・ウェールズ 日程未定

② UIAA アイスクライミング選手権派遣支援

##### (2) 登山医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

###### ア) UIAA MedCom

①UIAA MedCom Meeting への出席

###### イ) 支援している医科学的諸事業

① JSMM 国際認定山岳医研修会

② NPO 富士山測候所を活用する会

③ JSMM 登山者検診ネットワーク

④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

###### ウ) 調査研究事業

①医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

#### 5. 自然保護研究調査事業

##### (1) 山岳環境保全事業(自然保護委員会)

###### ア) 研修及び研究会

①令和2年度自然保護委員総会 (第44回山岳自然の集い)

2021年11月中旬 国立オリンピック記念青少年総合センター

②山岳自然保護環境研究会パート1

5月下旬 場所未定

③第12回自然保護指導員研修会

2022年1月下旬 国立オリンピック記念青少年総合センター

###### イ) 自然保護の啓発

①自然保護指導員制度の推進

②自然保護広報資料の出版

③全国環境月間(6月)の実施

④環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

⑤山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会への参加

- ・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
- ・各種環境保護事業の後援と派遣
- ⑥日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力
- ⑦全国山岳自然保護関係活動の集約とHP広報

## 5. 共益事業

### (1) 広報等

ア) 『登山月報』 毎月 15 日定期発行 第 625 号 (4 月号) ～第 636 号 (3 月号)

イ) HP のタイムリーな更新作成 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

- ① HP 新規アップ
- ② 英文コーナーの新設

### (2) 会議等

ア) 総会 6 月 20 日 (日)

イ) 理事会 原則として毎月第二木曜日

6 月は総会の 15 日以上前の日

ウ) 全国理事長会議 2022 年 2 月 13 日 (日)

エ) 全国参与会 9 月 25 日 (土) 新潟県 (第 59 回全日本登山大会開催時)

オ) 常務理事会 原則として毎月第二木曜日

カ) 委員長会議

キ) 常任委員会 毎月 1 回以上開催

ク) 事務局会議 (随時)

ケ) 山岳 4 団体懇談会 (日程未定)

コ) (一財) 全国山の日協議会 (随時)

- ・評議員会・理事会・運営委員会への出席
- ・第 5 回「山の日」記念全国大会 8 月 11 日 (火) 大分大会

サ) 国際会議

- ① 国際山岳連盟 (UIAA) 理事会
- ② 国際山岳連盟 (UIAA) 総会 11 月初旬 トルコ
- ③ アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会 日程未定
- ④ アジア山岳連盟 (UAAA) 総会 10 月日程未定
- ⑤ 国際山岳連盟登山部会 日程未定
- ⑥ 国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) 総会 2022 年 4 月 パリ
- ⑦ 国際スキー連盟 (ISMF) 総会 5 月 7 日 (金) ～9 日 (日)

### (3) 総務等

ア) 役員改選 6 月 20 日 (日) 令和 3 年度定時総会

イ) 令和 3 年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行

ウ) 議事録の整備

エ) 山岳保険のPR (山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)

オ) 組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。

カ) JMSCA 会員のデータベース化の整備

#### (4) 財政等

ア) 財源の確保

①JMSCA” ITADAKI” 会員の加入促進

②山岳共済会々員の加入促進

③賛助会員 (個人・団体) の加入促進

③ ロイヤリティー収入源の具体策を検討

・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討

イ) 外部資金の導入

①グローバル・パートナーの獲得

②寄附金の獲得

税額控除を活用して推進する

ウ) 常務理事会において毎月の収支報告

エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理

オ) 山岳共済会 (事務センター) の運営管理・山岳共済会会計

カ) 監事監査 期末監査: 5月20日(木)~5月21日(金)

中間監査: 10月

キ) 中間決算と補正予算について 11月

ク) 2022年度予算案の作成 2022年1月

以上